

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590300109		
法人名	社会福祉法人 横手福寿会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホームひなたの家		
所在地	横手市増田町吉野字梨木塚95-2		
自己評価作成日	平成28年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	平成28年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひなたの家の理念「自由で穏やかな暮らし・笑顔あふれるその人らしい暮らし・人と人とのつながりを絶やさない暮らし」に基づき、入居者様一人ひとりの立場に立ち、安心して居心地良く楽しく暮らしていただけるよう支援している。
また、出来る力を活かした生活を送っていただけるようできることやできそうなことはなるべく自分から行っていただけるよう配慮し、少しでも自立につながるよう支援している。
職員は、入居者様の状態、性格等をよく理解しており、一人ひとり人格を尊重し、その方に合った丁寧な対応や言葉遣いに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は田園や森林が広がる自然豊かな環境に位置し、事業所の理念である「穏やかな暮らし、笑顔、人とのつながり」を大切に支援している。市街地からは離れているが、同法人の介護施設が併設されており、互いに協力・連携を保ちつつ地域や人とのつながりを大切に支援している。また、管理者と職員は、互いに理念を共有し、利用者一人ひとりの要望や家族の希望を引き出し、できる限り人とのつながりを絶やさない暮らしの支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目のつく場所に貼紙をし、入居者様一人一人にとっての理念とは何かを考えている。理念を掲げ実践を心掛けている。理念に基づき実施している。	管理者と職員は理念を大切に、月ごとの職員会議や日々の生活の中で、利用者一人ひとりの穏やかな笑顔のあふれる暮らしとは何か、人と人のつながりを絶やさない支援とは何かを問いかけながら理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行きつけの美容院への外出や趣味の会への参加を継続している。地域の行事等の参加を通じ地域交流が図れるよう支援している。地域の学校行事への参加等行い交流を図っている。	事業所が市街地から離れているため、地域との交流や地域密着型事業所としての役割を果たす事は努力や工夫が求められるが、小学校行事への参加や、事業所でバーベキューを行うなど改善に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	広報誌「ひなたぼっこ」を年に4回発行し、認知症への理解が深まるような知識を発信している。道の駅のフリーペーパーを置く場所にも配布している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的を開催している。写真掲載などで取り組み状況や入居者様のご様子をわかりやすく報告している。運営推進委員会に出席された方の意見をサービスに活かすよう取り組んでいる。	運営推進会議は定期的で開催されている。また、必要に応じて地域の方の参加を得て、事業所の活動を報告すると共に、運営推進会議の協力員について相談し、一人紹介してもらったりと、出席された委員の意見を取り入れ改善を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会での報告、地域包括支援センターの相談員が月2回事業所を訪問し入居者様との触れ合いを深めている。地域ケア会議に出席し事業所の実情を報告している。	運営推進会議とは別に、地域包括支援センターの職員の訪問を定期的に受けている。その際に事業所の様子や利用者の実情を報告し、ケアサービス向上のため協力関係が密になるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアル作成を行っている。事業所全体で勉強会を開き、知識を深めている。ベッド柵は必要最低限に使用している。	身体拘束をしないケアのマニュアルがあり、管理者と職員は勉強会を開き、知識や認識を共有している。また、日常の中で利用者一人ひとりの行動パターンを把握しており、事前にその人に必要な対応を行うことにより、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関するマニュアルを作成している。事業所全体で勉強会を開き知識を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所全体の勉強会で日常生活自立支援事業や成年後見制度について知識を深めている。必要時は関係者と話し合い制度を活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族に書面や電話連絡、面談行い実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意向調査を実施しており意向を実現できるよう努めている。ご意見箱の設置、掲示や書面で外部者への報告している。	利用者の意向調査を年1回行い、利用者の思いや要望の確認をしている。利用者からは、トイレの臭いや柵の位置などの改善の要望があったので対応した。また、家族との面接の機会を設け、意見の反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回事業所内会議で意見交換をする機会を設けている。必要に応じていつでも相談できる環境を整えている。	管理者は、産休・育休・育児短時間勤務等、法人の就業規則等に規定されていることについて職員の対応が不利益にならないよう配慮すると共に、日々の提案を連絡ノートに記録し、必要に応じて職員会議で取り上げ職員の意見の反映に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則に規定されており、やりがいが持てるよう整備されている。必要に応じて不利益にならないよう配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会、事業所内外への研修への参加を行い職員全員が知識を深めれるよう実践している。研修、オリエンテーションなどをうける機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム情報交換会への参加を行い人事交流等を通じ情報交換する機会を設けている。同法人の他グループホームと情報共有等を通じサービス向上の取り組みを実施している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを多く取り日頃から聞き取りを行っている。居室担当者を中心に良い関係が築けるよう努めている。サービス導入時にアセスメントを行い要望などを聞き取っている。情報収集、情報共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アンケートや電話連絡、面談にて要望について聞き取りを行い関係作りに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に本人本意で物事をとらえ入居者様一人一人の信頼関係が築けるように関わりを持っている。家事を「お願いする」という姿勢で行って頂く事で上下関係にならないよう努めている。暮らしを共にする者同士、互助の精神で関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで現状報告を面会の機会を通じてご本人の情報をお伝えしている。行事への参加の呼びかけや受診時の付き添いを可能な限り行って頂いている。家族と情報共有を行い、共に本人を支えていけるよう努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院への外出や趣味活動、会への参加等これまでの馴染みの人や場所との関係が途切れないよう可能な限り支援している。	管理者と職員は、事業所の理念の「人と人とのつながりの絶やさない暮らしの実践」をしており、利用者の生活歴を大事に共有し、19時から21時まで行われる趣味のダンスやお稽古ごとの付き添いなどを遅番の職員を2名体制にして対応するなど、できる限り支援し、馴染みの関係継続の支援を行っている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流しやすい座席配置の検討や人間関係に誤解が生じた場合の仲裁などに努めトラブルに発展しないよう努めている。利用者の個性を理解し、トラブルに発展しないような支援を実施している。ADLや相性に応じ配席を変えるなど孤立しないよう努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じて出来る範囲で相談や支援に努めている。入院退去後は各種関係機関への情報提供、家族との連絡のやり取りを実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人や御家族の意見を参考にしし、明確なご要望を聴取できない場合はご本人のバックボーンや家族からの聴取を行っている。本人の生活歴などを家族から聞き、本人本意で物事を把握できるよう努めている。	利用時のアセスメントの他に、介護計画作成時に本人と家族の面接を実施しており、利用者の生活歴や暮らし方を聴取し、本人の思いや意向を把握している。管理者と職員が情報を共有し、利用者が穏やかに暮らせるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族への聞き取りを通じて全職員がご本人の全体像について把握に努めている。事前情報で入手するか、入居時に確認し、入居後も都度確認している。これまでのサービス利用については居宅の介護支援専門員より情報を得ている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化が生じた場合は周知徹底した対応に努めている。入居様様の一人一人のかかわりの中で全体像の把握に努めている。又都度介護記録、連絡ノートに記載し情報の共有に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や御家族の要望を基にカンファレンスを実施し、その方にあつた介護計画を作成している。御家族やご本人のご要望を伺いながらご本人の立場に立った視点で現状に即した計画を作成するよう努めている。	介護計画を作成するにあたり、利用者及び家族と面接を行い、本人が笑顔でよりよく暮らすためにはどうすれば良いかを話し合い、それを基にカンファレンスを実施し、介護計画を作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノートを通じて日々の様子やケアの実践、結果の情報を共有できるようにしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慰問ボランティアを活用している。また、外出などを利用して地域資源を利用できるように心掛けている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来からのかかりつけ医、薬局が可能な限り利用できるよう支援している。ご本人と御家族が信頼するかかりつけ医と薬局を尊重し入居後も継続していけるよう支援している。	従来からのかかりつけ医、薬局を利用できるよう支援している。現在、9つの医院に受診、4つの薬局で処方されている。入所後も人と場所の継続を大切にし支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同事業所の看護職に入居者の病状報告をしている。又、訪問看護サービスを利用しており体調面の変化について等相談している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は早期に情報提供を行い随時面会に伺い、病院関係者から情報提供を受けている。病院より情報を頂き速やかに対応できるよう信頼関係を築くよう心掛けている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態にあわせて、ご家族と連絡を取り合い説明し、理解に努めている、契約段階で十分な説明を心掛けている。	重度化や終末ケアについては行わないことを入所時に説明し理解を得ている。重度化や終末ケアが必要になった場合には、利用者及び家族と良く話し合い、利用者の状態に合わせて、医療機関や介護施設等を紹介し、本人が望む支援を行うように取り決めている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成をし、勉強会を通じて知識を深めている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成をし、年2回の日夜想定避難訓練を通じて全職員が知識を身に付けている。	マニュアルに基づき、年2回の避難訓練を計画し実施している。同一敷地内にある介護施設との協力連携を密にしている。また、発電機や備食を有事に備えている他、避難訓練には消防署の立ち会いがある。	玄関から右側の避難道がスロープになっており冬期間は除雪等の理由により柵がはずされている状況であった。車いすの利用者がおられる事を考慮すると、避難時にスロープ先の坂に落下する事が予想されるので落下防止の工夫を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや態度に注意し、職員は毎月介護の実施にて自身のケアについて振り返る機会を設けケアに結び付けている。努めているが慣れによる気持ちの緩さが言動に表れていた。	事業所独自の38項目の「介護の基本実行表」を作成し、毎月全職員が自己チェックを行い、言葉遣いや態度、振る舞い等のケアの振り返りを行って自己研鑽に励み、利用者のその人らしい穏やかな暮らしの支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のかかわりの中で入居者様一人一人が自己決定が出来るように働きかけている。質問形式で意見を伺いご本人の意思を確認していたが不十分だった。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人のペースに合わせて対応している。職員のペースで決定してしまう場面があったように思われる。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に身だしなみやおしゃれに気を配り配慮している。ご本人の好む髪型、洋服、化粧品が使えるよう配慮している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の相談やADLに応じた作業を行って頂いている。ご本人のできる事を引きお出し、得意な事を楽しく安全に出来るよう心がけている。	利用者と共に献立の相談や調理方法を話し合いながら一緒に調理している。利用者の得意な事を行うよう支援することで、笑顔やADLの維持につながり、本人が関わることにより食事が楽しみになるよう支援している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を確認している。摂取量が少ない場合には代替え品の提供を行うなどして栄養補給に努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人に合った口腔ケアの方法を取っている。又、居室担当が中心になり口腔内状態を確認し、把握している。同法人に属する歯科衛生士、歯科医の指導の下、口腔ケアを実施している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努めている、定期的に誘導や声掛けを行い出来る限り失敗がないよう支援している。一人一人にあった排泄用品を選ぶようにしている。	個々の排泄パターンを記録し把握に努めている。また、その記録を分析し、下剤の服用やおむつの時間の調整、排泄時間の前にさりげないトイレへの声かけ等に役立て、できる限り失敗のないようトイレでの排泄に向けた支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関と連携し、便秘にならないように対応している。水分、食事、運動などに配慮し便秘にならないように工夫に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	あくまでもご本人に入浴の希望を伺った上で入浴して頂いている。積極的なご希望が伺いにくい理由もあり、職員が中心になって計画している日もある。	利用者本人の希望や健康状態に合わせた入浴を行っている。事業所では14:00から17:00の利用が多い。入浴したくない利用者については、さりげない声かけ等で促し、入浴を楽しむよう支援している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活リズムを把握し、個々の休憩時間を確保している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書をファイリングし、全職員が周知できるようにし、薬への知識を深めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のある事やできる事、やりたい事の把握に努め張り合いや喜びに繋がるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に添って外出や外食、買い物へ出かけている。ご家族の協力を得ながら自宅周辺へ出かけている。その日の希望に添ってというところが難しい時あり。	利用者の希望を取り入れ、家族の協力のもとに外出している。また、花見など季節に合わせた外出や花見やスーパーでの買い物等の外出を支援している。時には、同法人内のワゴン車を借用して大勢での外出を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際、ご自分の財布から買い物ができるように支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	宅配のお礼に電話をする機会を設けている。また、毎月の利用請求書にご本人が書いた手紙を添える事もある。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔と家庭的な雰囲気作りを心掛け、心地良い空間を提供出来るように努めている。季節に応じた装飾屋草花を飾り、室内を明るくするように努めている。	共用の空間はよく整えられており、天窓からの心地良い採光があり、廊下も清潔に保たれている。また、壁面には季節に応じた装飾や利用者の作成した手作りカレンダーがあり、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	東西の廊下にソファを設置している。又、和室もあり、共用空間でありながら思い思い過ごせるように工夫している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族の協力を得ながら馴染みのテレビや家具を持ち込み本人が心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の窓からは、田園風景が広がり四季折々の風景を楽しむことができる。また、利用者本人の馴染みの写真やご神仏などを持参したり、花や手作り手芸品を飾ったりして、本人の落ち着いた環境を整えるよう支援している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハード面での限界はあるが見守り可能な範囲で行える事を実践して頂けるよう心掛けている。ADLの変化に合わせて、居室の家具の配置を変える、ご家族の理解を得たうえで音声センサーを配置する等出来るだけ安全で安心な環境作りに努めている。		